

水土里ネット ながの情報

2023
NO. 19
秋号

長野県土地改良事業団体連合会
土地改良のしるべ



CONTENTS

- 全国土地改良大会福井大会
- 特集 第64回全国土地改良功労者表彰受賞地区の紹介 —伊那市手良土地改良区—
- 農業農村整備サマーセミナー
- 農業農村整備の集い
- 要望行動
- 農業再生協議会からのお知らせ
- 長野県からのお知らせ
- 高野元専務理事逝去
- 人事異動

第45回全国土地改

みどり 『水土里』がある しあわせ 『幸福』がある えがお 『笑顔』がある



第45回全国土地改良大会が、令和5年10月11日、「『水土里』がある『幸福』がある『笑顔』がある～ふくい語る土地改良の未来～」をスローガンに福井県で開催され、会場となったサンドーム福井に全国各地から土地改良関係者が集まった。

式典では、はじめに開催県として福井県土地改良事業団体連合会山崎会長のあいさつの後に、主催者として全国土地改良事業団体連合会の二階俊博会長の代読で義経副会長が「本大会が開催できることを、主催者を代表して心から感謝申し上げます。土地改良団体の今後も存続していく重要性を全国に認識してもらうことが、農業農村振興の予算確保や展開につながる。引き続き皆様の



山崎会長

さらなるご尽力、ご協力をお願いするとともに、“闘う土地改良”のスローガンのもと一致団結し取り組んでいきましょう」とあいさつされた。

続いて、福井県の杉本知事、越前市の山田市長、鯖江市の佐々木市長による歓迎あいさつ、武村農林水産副大臣、都道府県土地改良事業団体連合会会長会議顧問の進藤金日子参議院議員、宮崎雅夫参議院議員から祝辞が述べられた。土地改良事業功績者表彰では、農林水産大臣表彰6名、農村振興局長表彰16名、全



武村農林水産副大臣

国土地改良事業団体連合会会長表彰44名が受賞。長野県からは、前上伊那郡伊那市土地改良区理事長の平澤正弘氏が全国土地改良事業団体連合会会長表彰を受賞された。



進藤参議院議員

良大会福井大会

がある ～ふくいで語る土地改良の未来～

その後農林水産省農村振興局の青山次長が「未来へつなぐ土地改良」と題して基調講演を行った。続いて、土地改良における男女共同参画の取組の優良事例紹介として、南砺土地改良区（富山県）の定司理事長、福井県土地改良事業団体連合会の川合理事による事例発表が行われた。

最後に、福井県立大学の学生が「『水土里』がある『幸福』がある『笑顔』がある」のスローガンのもと、未来の土地改良について語り、夢のある農業と賑わいのある農村の創出を目指すことをここ福井の地で高らかに宣言します」と大会宣言を行い、次回開催の千葉県に大会旗が引き継がれ、盛会のうちに閉会した。



宮崎参議院議員



全国土地改良事業団体連合会長表彰

平澤正弘 氏 ((前)上伊那郡伊那土地改良区理事長)

平澤氏は、温厚篤実にして責任感が強く、農業に対する熱意と行動力は誰もが認めるところであり、その実行力で地域からの信頼が厚い。

平成11年3月から4期12年4カ月にわたり上伊那郡伊那土地改良区監事及び代表監事を努めた後、平成23年7月に理事長に就任し、農業の生産性向上を図る各種事業の推進に積極的に取り組まれた。

特に、天竜川から取水する三日町頭首工は、平成12年の国営事業での改修から20年以上経過し、ゴム堰部分の劣化が著しいため、改修を計画。関係機関や地元との調整を図りながら、令和6年の新規採択に向けて大変尽力された。

また、天竜川の下段から上段へポンプアップを行う揚水機のポンプが、摩耗により定期的なオーバーホールを必要とし、多額の費用と労力がかかる状況であったが、氏自ら積極的に地元との調整を進め平成27年に改修工事を行い維持管理費が大きく削減された。

さらに、理事長就任当初から氏が発起人となり、伊那地域の改良区の要望を取りまとめ、伊那市と一体となって中央省庁及び国会議員へ事業費の確保や円滑な施設改修工事の実施等の要請活動を継続して実施している。

また、代表監事の経験を活かし、総代定数や役員報酬の見直し、インターネットバンキングの導入等、事務の合理化と体制強化にも力を入れて取り組まれた。これにより、農地転用等で改良区の賦課面積や組合員数が減少傾向にある中で、賦課金の大幅な引き上げを行うことなく組合員の負担軽減につながっており、その功績は極めて多大である。

全土連会長表彰 伊那市手良土地改良区

伊那市手良土地改良区の受益地は、天竜川と三峰川が交差する伊那市の北東に位置し、西に向かって傾斜した標高700～800mの水田地帯です。水源は、三峰川水系と、古田地区をかんがいする棚沢川水系とに大別され、水稻を中心に野菜、花き栽培等の複合輪作体系により営農が行われています。

令和4年度第64回全国土地改良功労者表彰で「全土連会長表彰」を受賞した伊那市手良土地改良区の酒井理事長に土地改良区の今後の展望や課題についてお話を伺いました。



酒井理事長



これまでに取り組んできた主な事業

本土地改良区は、三峰川総合開発事業の一環として、昭和31年に設立されました。事業当初は三峰川水系の通る約90haを対象に進められましたが、昭和51年度に水系の異なる未整備地帯約50haを編入し「農村基盤総合整備事業」と「農村地域工業導入特別対策事業」を実施しました。昭和59年度、60年度にも未整備地域を追加し事業を実施。その後は水路を中心とした維持管理事業が中心となり、平成17年度をもって一連の償還事業が完了しました。

平成27年度からは「農地耕作条件改善事業」を実施。老朽化により漏水の著しい用排水路を改修し、農業経営基盤の強化と地域活力の再生を図っています。



三峯3号幹線水路



施設の維持管理

三峰川水系の受益地については、中坪原、野口、沢岡の3地区の水利組合から構成される手良地区三峯水利委員会が、年2回の協議により、通水時間等を調整しています。三峰川水系以外の地域についても、地域ごとの水利組合で簡単な補修を含む維持管理を行っています。



改良区役員による水路点検



地域との関わり

◆多面的機能支払交付金活動組織との連携

本土地改良区の受益地では、改良区の組合員の他、区長会、営農団体(ファーム手良)、農業委員などが構成員となり、平成24年に農地・水「手良の会」が立ち上げられ、約150haを対象に地域資源の保全管理活動に取り組んでいます。

野口・中坪・下手良・ハツ手の4支部体制で、通水に備えて水路の機能診断、病害虫駆除対策作業(雑草一斉焼却)、耕作放棄地での植栽活動といった活動に地域住民も参加し、手良地区一体となり取り組んでいます。



住民による
水路補修



耕作放棄地を
活用した
植栽活動

◆国庫補助事業を活用したフェンスの設置

水路の転落防止策として、木の杭に有刺鉄線を張っていたが杭の腐敗が進み、交換を検討していたところ、同じタイミングで当該箇所が小学校の通学路危険箇所リストに含まれていると連絡がありました。当初の予定よりも早急な対応が必要だと考え、安全管理施設整備対策事業を活用してフェンスの設置を行いました。事業を活用したことで以前より安全性の高いフェンスを早急に設置することができ、近隣の小学校からも感謝の言葉をいただきました。

Before



After



今後の展望や課題

受益地内の水路の多くが、造成から数十年が経過しており、老朽化が深刻な問題となっています。改良区設立当時と違い、今後は今ある施設をどれだけ費用を抑えて長く使っていくかという維持管理中心の時代になっており、今一度改良区の意義やあり方を考え直す必要があると感じています。高齢化・人口減少が進む中で、やはり農業は改良区や農家だけでなく、JAや区、もちろん多面的の地域活動とも連携しながら、地区全体で守っていく必要があります、その中で改良区として出来ることに全力で取り組んでいきたいと考えています。

伊那市手良土地改良区

- ・所在地 伊那市手良沢岡862-1
手良公民館「てらとぴあ」内
- ・関係市町村 伊那市
- ・設立年月日 昭和31年1月19日
- ・受益面積 255ha (R5.4.1現在)
- ・組合員 528人 (R5.4.1現在)

インターンシップ開催 1

農業農村整備サマーセミナー&インターンシップを実施しました!

本会では、令和5年8月~9月にかけて長野県農政部農地整備課、長野地域振興局農地整備課協力のもと、農業農村整備に興味のある学生を対象に、サマーセミナー及びインターンシップを開催しました!

1日目 (サマーセミナー)

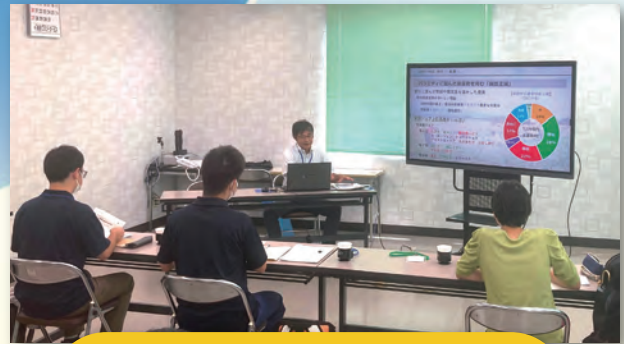
- オリエンテーション
- 長野県の農業農村整備について
- 農政部農地整備課の仕事紹介
- 長野県土地改良事業団体連合会について
- 現地見学

第1回：埴科頭首工・ため池

第2回：若穂綿内地区 果樹園の再整備

第3回：水門の自動化・小水力発電

- 先輩職員との意見交換会



- ・ 長野県の農業農村整備について
- ・ 農政部農地整備課の仕事紹介



▲ 農業用水の取水施設
(千曲市・埴科頭首工)



▲ ため池の耐震化 (山の神・峯)



▲ 果樹園の再整備
(長野市若穂綿内地区)



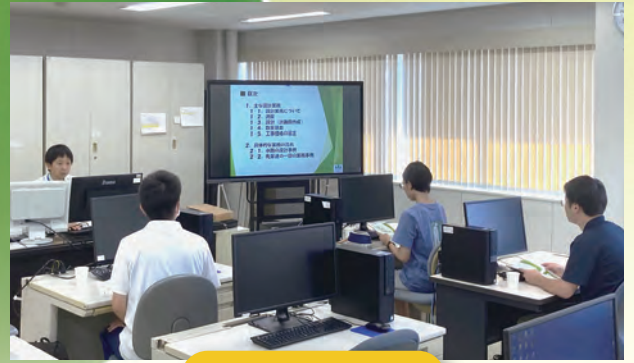
▲ 水門の自動化・小水力発電 (飯綱町芋川)

現地見学では、長野地域振興局の担当の方より地域の概要や事業について説明がありました

インターンシップ開催 2

2日目 (インターンシップ)

- 長野県土地改良事業団体連合会の業務紹介
- ドローン・3Dレーザースキャナーを使った測量
- TREND-POINTを使った縦横断の作成
- CADでの計画図作成



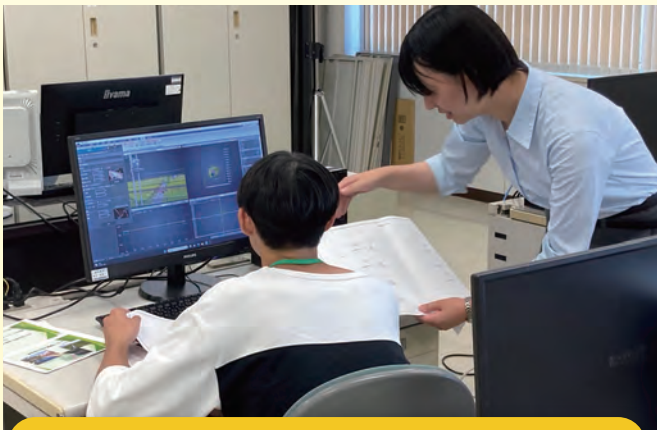
▲業務紹介



▲3Dレーザースキャナーを使った測量



▲ドローンの操縦体験



▲TREND-POINTを使った縦横断の作成



▲CADを使った計画図作成

参加した学生の声

◆意見交換会

事業を実施する上で、事業の効果と環境への配慮のバランスをどのように取っているのか。業務量や現場に出る機会はどの程度あるのか。GIS技術の活用状況を知りたい。等々



◆感想

- ・現地見学や現地での測量～作図まで一連の流れを体験することで、働く姿がイメージできた
- ・ドローン操縦やCADを使った設計といった大学の講義では出来ない貴重な体験が出来た。
- ・実際に働く職員の話を知ることができ、業務の内容や職場の雰囲気を知ることが出来た。
- ・普段あまり意識しない水路にも、農業を支える基盤としての重要な役割があり、多くの関係者の協力で維持されている事を初めて知ることが出来た。



農を守り、地方を創る予算の確保に向けて 農業農村整備の集い

全国水土里ネット主催の農業農村整備の集いが11月7日、東京都千代田区の砂防会館別館「シェーンバッハ・サボー」で開催された。全国水土里ネットの二階会長のあいさつの後に、令和5年度当初予算の確保をはじめとした要請書が全会一致で採択され、集いは盛会のうちに閉会した。



農業農村整備の集いの様子

当初予算の確実な確保などを要望 要望行動

同日、県選出国會議員へ、予算確保や農事用電力料金高騰対策など4項目について要望行動を実施した。藤原会長をはじめ土地改良関係者9名が出席し、宮下一郎衆議院議員、若林健太衆議院議員、務台俊介衆議院議員、後藤茂之衆議院議員、中川宏昌衆議院議員、井出庸生衆議院議員（秘書対応）へ要望書を手渡した。

各議員より、要望頂いた項目の重要性は十分承知しており、農業農村整備事業の推進に向けてしっかりと取り組んでいく旨の回答をいただいた。



宮下一郎衆議院議員（農林水産大臣）



若林健太衆議院議員



後藤茂之衆議院議員



務台俊介衆議院議員



中川宏昌衆議院議員

4つの要望項目

1. 物価高騰などの影響を踏まえ、土地改良事業が計画的に実施できるよう、令和6年度当初予算において、地域の要望を満たす予算を確保すること。
2. 電力価格が高騰する中で、引き続き安定的な用水供給が出来るよう、自然エネルギーやデジタル技術を活用した農業用ポンプ等の省力化に向けた取組を推進すること。
3. 農業水利施設の管理省力化を図るため、ICT技術を活用した自動化・遠隔化に向けた取組の更なる推進を図ること。
4. 中山間地域の農業振興のため、条件不利地域における基盤整備の更なる推進と、多面的機能支払交付金及び中山間地域農業直接支払事業の予算確保と制度の継続を図ること。

土地改良区の皆さまへ

～農業者の急速な高齢化に備える～

地域計画の策定にぜひ参画を！

地域計画とは？

- 市町村が主体となり、令和7年3月までに、市街化区域以外の全地区について策定する、将来の地域農業の在り方と、筆ごとの予定耕作者を図示した目標地図からなる計画。
- 策定にあたっては、おおむね10年後を見据え、担い手を含め、農地所有者、地域住民なども交えて、協議を行うことが必要です。



目標地図の例

計画の策定手順

- 農業委員会は、必要に応じ意向調査を実施し、地域の農地利用に関する現況・目標地図の素案を作成します。
- 市町村は地域の関係者が集まる「協議の場」を設定し、地域の農業の進む方向、今後も守っていききたい農地の範囲、その農地を守るための方策などについて議論します。



地図を見ながら協議

お願いしたいこと

- 区組合員の皆さまへの、意向調査への協力と、協議の場への参加の呼びかけ
- 区で把握している耕作者情報について、可能な範囲での農業委員会への提供（現況地図等の作成にあたり大いに役立つため、もし把握していれば）
- 協議の場における今後守っていききたい農地の範囲の議論にあたり、区の事業に支障のない範囲となるような事前調整・協議での助言など

意向調査の実施予定や地区ごとの協議のスケジュール等については、市町村へお問い合わせください。

記事作成者：長野県農政部農村振興課（026-235-7245）

自動給水栓で用水管理を楽にしよう

～自動給水栓を利用した田越しかんがいの紹介～

1 自動給水栓とは

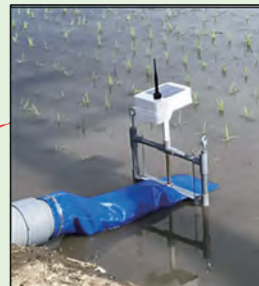
水稻栽培では、担い手農家や法人への農地集積が進むにつれて、用水管理にかかる管理労力の軽減が課題になります。用水管理の省力化を図るための方策として自動給水栓の設置が効果的です。

<自動給水栓の特徴>

- スマートフォンで取水ゲートの操作が可能
- 水位計の設置により、田んぼの水位を何時でも確認することが可能
- 自動設定することで、取水時間や水位を遠方制御することが可能



【スマートフォンによる水田の用水管理】

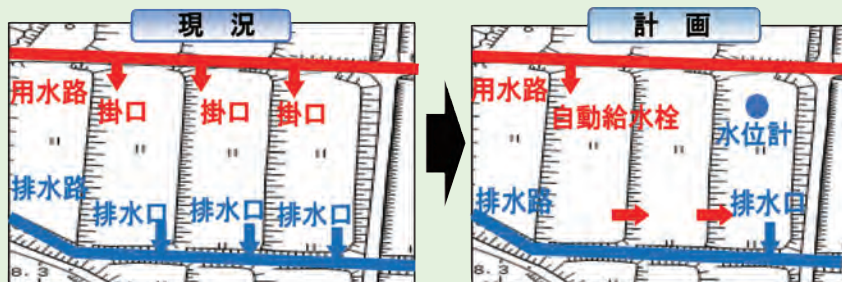


【自動給水栓】

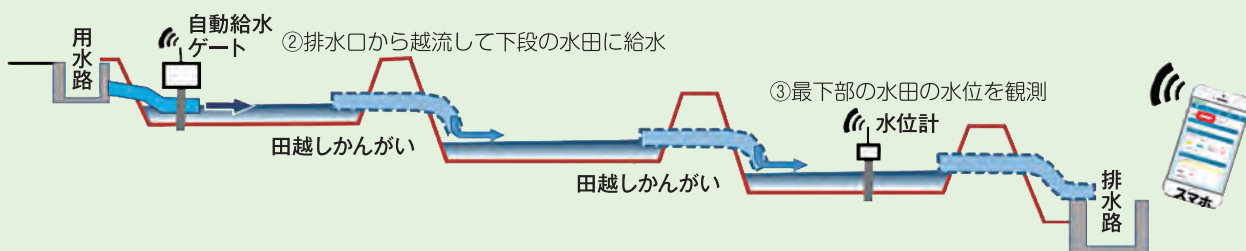
2 自動給水栓を利用した田越しかんがいの紹介

水田の落差を利用し、3枚程度の水田を田越しでかんがいすることにより、1台の自動給水栓で連続した複数の水田の取水を行い用水管理を省力化します。

最下段の水田の水位を観測し、水位の変化に応じて最上段の給水栓が自動で開閉する仕組みです。



- ①最上部の水田に給水
- ②排水口から越流して下段の水田に給水
- ③最下部の水田の水位を観測
- ④最下部の水田の水位が下がったら、最上部の水田に給水



3 実証試験の結果と農家の声

県では、自動給水栓を利用した田越しかんがいの実証試験を行いました。その結果、上段と下段の水位は安定し各水田の水稻生育に大きな差はありませんでした。

農家の方からは「どこにいても田んぼの水位を確認できるので手間がかからなくなった。」「給水の前の堰で草が詰まり水が溜まらないことがあり、水路の整備も必要だ。」との声がありました。また、役場の方からは「用水路に水が豊富にないと導入が難しい。」「農家の水回りの負担を軽減できればと考えており、同条件の農地で推奨していきたい。」との声がありました。

8月10日には実践技術研修会を開催し、県・市町村の担当者約30名が出席してシステムを開発しているメーカーや実際に営農した農家の説明を聞くなど研修を行いました。今後は、用水路の地中化（パイプ化）等による用水の安定供給と併せ、用水管理の省力化に向けた整備を検討していきたいと考えています。



【実践技術研修会の様子】

元専務理事 高野和頼氏逝去

本会の元専務理事 高野和頼氏が10月5日に逝去された。89歳だった。

高野氏は昭和32年に長野県土地改良協会に就職。同年の土地改良法改正によって翌33年に設立された長野県土地改良事業団体連合会の本部事務局に勤務、昭和51年5月に本部事務局総務部企画指導課長、63年に総務部長を歴任し、平成2年からは事務局長として職員の先頭に立って長野県の農業農村の振興発展に尽力してきた。平成10年4月からは専務理事、そして平成18年4月からは特別顧問として業務推進のため適切な指導・助言を行ってきた。

またこの間、長野県農業会議常任会議員など数多くの関係団体・関係機関の委員等を務め、その手腕は高く評価された。これらの功績により、平成19年には長野県知事表彰を受章した。

心よりご冥福をお祈りいたします。

◎人事異動(農林水産省)

農林水産省農村振興局 (9月1日付)

農村政策部

地域振興課

課長(国土交通省北海道開発局農業設計課長)

山本 恵太

◎人事異動(長野県土地改良事業団体連合会)

長野県土地改良事業団体連合会 (11月1日付)

東信事業所

本部事務局総務企画課長兼会計対策幹
東信事業所長事務取扱

竹内 正啓



表紙写真紹介 ————— 福島新田(飯山市瑞穂)

眼下には穏やかに流れる千曲川、遠方には北信五岳を望む絶景の棚田です。江戸時代に飯山藩からの許可状により開田されました。映画「阿弥陀堂だより」(2002年公開・小泉堯史監督)のロケで使用された阿弥陀堂が残されており、多くの観光客が訪れています。2015年3月に北陸新幹線飯山駅が開業し、都心からのアクセスも便利になりました。

文：信州の農業遺産魅力ガイドより(長野県 農政部 農地整備課 発行)



みどり
水土里ネットながの
土地改良のしるべ

発行：令和5年11月（年4回発行）
発行所：長野県土地改良事業団体連合会
〒380-0838 長野市大字南長野字宮東452番地の1
TEL026-233-4281 <http://www.nag-doren.or.jp>
土地改良のしるべ編集人：白鳥 公晴